

活動レポート

日本技術士会北海道本部 地方委員会 道南技術士委員会

文責：道南技術士委員会 金澤 秀司

「令和 5 年度 道南技術士委員会定期総会・技術研修会」開催報告

1. はじめに

道南技術士委員会では、令和 5 年 6 月 16 日(金)に定期総会を開催し、続けて第 1 回の CPD 研修会として「技術研修会」を開催しました。昨年は「with コロナ時代」への取り組みとして対面研修とオンライン研修のハイブリッド研修会でしたが、今年は新型コロナが季節性インフルエンザ相当の第 5 類に移行したこともあり、対面により開催いたしました。

「after コロナ時代」を迎えた昨今ですが、コロナが完全になくなったわけではないため、発生状況などを見据え、安全・安心に配慮しながら、今後も開催していく所存です。

この度の定期総会・研修会は、参加者 22 名の開催となりました。

2. 定期総会実施概要

開催日時：2023 年(令和 5 年)6 月 16 日(金)

14:00～15:00

開催場所：シエスタハコダテ 4F G スクエア
多目的ホール

「令和 5 年度 道南技術士委員会 定期総会」次第

- I. 代表開会挨拶(布村)
 - II. 令和 4 年度 道南技術士委員会の活動報告(中谷)
 - III. 令和 4 年度 決算報告及び監査報告
(決算報告：奈良、監査報告：吉田)
 - IV. 令和 5 年度 研修会実施計画及び予算案説明
(研修会計画：中谷、予算案説明：奈良)
 - V. 令和 5 年度委員会役員の選出・承認(中谷)
 - VI. 閉会挨拶(布村)
- ※敬称略



写真-1 開会挨拶をする布村代表



写真-2 研修会実施計画の説明を行う中谷副代表

総会の中では、残念ながらコロナ禍により、研修会規模と頻度が縮小してしまった令和 4 年度の年間活動報告や決算報告が行われました。

一方で、令和 5 年度における、コロナ前のような活発な活動内容を中谷副代表が説明されました。現場見学会に加え、「北東 3 地域本部技術士交流研修会」や「若手技術者対象技術発表会」のほか、縄文史跡などの地域性が特色の「バスツアー」などがあり、筆者は after コロナ時代、技術研さんできる機会が増えたことに深い喜びを感じました。

3. 技術研修会

道南技術士委員会では、継続的な技術研修さんによる技術水準の向上や、函館を中心とした道南圏で活躍する技術者の育成を目的として CPD 技術研修会を開催しております。

今回は、令和 5 年度の第 1 回目として 2 名の方に登壇して頂きました。

開催日時：2023 年(令和 5 年)6 月 16 日(金)

15:00～17:00

開催場所：シエスタハコダテ 4F G スクエア

多目的ホール

(1) 技術研修会①

所属：函館工業高等専門学校 社会基盤工学科

氏名：金 俊之 准教授(技術士・建設)

発表概要：気候変動下での災害対応、技術者育成



写真-3 講演者の金准教授と熱心に聞く参加者

金准教授は、技術研修会の前段としてご自身の経歴をお話しされました。大学、大学院では「秋田県南東部の地すべり地形と最終氷期後期以降の河川地形変動」について研究されていました。大学院修了後は、埼玉県にある砂防エンジニアリング(株)へ就職、本社・九州支社で 7 年間勤務し、東日本大震災を契機に青森県庁土木職員に転職、11 年間勤務し、令和 5 年 4 月より函館工業高等専門学校に着任されています。学生時代にアメリカ・アイダホ州で地すべり調査を行った経験が技術者として活かされているとお話ししていました。

コンサルタント時代には、砂防計画の調査・立案、施設設計等に従事され、全国各地の現場でお仕事をされていたそうです。その時の事例として、富士川砂防事務所管内の調査時に地上 1m 程しか見えな

い砂防堰堤が、竣工時は 16m の高さがあり、堰堤の上下流で大量の土砂が堆砂して、埋没した状況を紹介し、想像力の大切さを話されていました。

青森県庁時代には、河川や砂防事業を担当され、令和 3 年 8 月の豪雨に伴い破堤した一級河川高瀬川(七戸町)の応急対策のご紹介をされていました。

令和3年8月 高瀬川(七戸町)の破堤による浸水

被災直後



図-1 高瀬川の破堤、被災状況

また「中村川 流域治水 緊急対策 推進会議」の取り組みについてのご紹介もありました。青森県の西側に位置する鰺ヶ沢町の二級水系中村川では、令和 4 年 8 月の大暴雨により河口部の市街地で約 370 戸の家屋浸水被害が生じました。再度災害防止等の観点から緊急的に対策を講じていく必要が生じ、すでに策定していた流域治水プロジェクトをもとに、この推進会議を立ち上げ、地域住民や鰺ヶ沢町、県、国などが連携した取り組みの枠組み作りにご尽力されたとのことです。あらゆる関係者と調整・合意を得ながら、緊急かつ具体的な効果が発現できる流域治水の取り組み推進は、青森県でも初めての試みであり、組織間の連携を図ることが難境の一つであったとお話ししていました。

気候変動によりこれまで降雨が少なかった地域でも、上述したような災害が増え、災害対応に関わる技術者の担い手不足を感じていたとのことです。技術士取得後は、若手も含めた技術士の輩出を目的に「あおもり技塾」の運営・企画にも携わり、また社会人博士課程で博士号も取得されたご経験からも、より一層、若手技術者の育成に貢献していくたいという思いが醸成されたとお話しされました。

そこで道南や北東北における若手技術者の育成と

いう強い思いを胸に、函館工業高等専門学校社会基盤工学科で教鞭をとることを決意し、令和5年4月着任されました。

函館高専では、多くの土木技術者を輩出するとともに、これから防災減災と一緒に考えていく技術者や研究者の育成に貢献したいとお話しされました。

(2) 技術研修会②

所属：NPO 法人 北海道魚道研究会

氏名：渡邊 拓也 幹事【(株)エジソンブレイン】

発表概要：魚道研究の活動報告



写真-4 講演する渡邊幹事

NPO 法人北海道魚道研究会は、2005 年 7 月 12 日に「魚の心がわかる魚道づくり」に取り組もうと渡島檜山管内の建設会社 24 社が集まり、前身となる道南魚道研究会が設立され、2006 年に NPO 法人認証され、現在の名称となりました。主な取り組みとしては、魚道清掃活動や河川環境教育、魚道技術・河川環境の向上、魚道施設情報の管理・研究が挙げられます。

魚道清掃活動として、毎年、道央地区、日高地区、道南地区で土砂や流木が支障となり機能不全をおこしている魚道施設の清掃活動が行われ、昨年は日高地区では新冠町岩清水ポキアップ川で 33 名の参加、道央地区では札幌市盤渓川で 61 名の参加がありましたが、道南地区ではコロナウィルスの影響で残念ながら中止となりました。

河川環境教育として、幼児から小学生を対象として川遊びから河川環境や生態系を学ぶことを目的とし、河川に生息している水棲生物の学習と周辺域の自然観察会を開催し、函館市川汲川で 35 名の参加がありました。

魚道技術・河川環境の向上として、毎年、魚道や河川環境に関する様々な専門家や研究者を講師に招いて定期講演会を行い、昨年は名寄市で開催し、翌日はサンルダムと周辺魚道の見学に 88 名の参加がありました。



図-2 NPO 法人北海道魚道研究会の活動記録

魚道施設情報の管理・研究として国土交通省、農林水産省、地方自治体からなる各魚道管理者と情報交換をおこない魚道施設情報のデータベース化を行い魚道管理、研究に役立てる活動をしています。

具体的には、管理者から魚道事業の推移、パトロール・維持管理の状況の提供を受け、魚道研究会から、データベースの構築状況と課題、次年度の事業計画を説明しています。

魚道のデータベースは約 2700 基分を集約しており、水系名や河川名、管理者、位置情報、会員が現地を確認し撮影した写真と現状調査結果等が一目でわかるようになっています。

また、その構築に関する最近の取組として、提供された基礎情報を CSV データに変換して GIS で管理することで、比較的簡単な知識でデータベースの管理が可能となり、管理者の手間と時間を縮減することができました。また、GIS を導入したことで高速化も実現可能となっております。

4. おわりに

金准教授と渡邊幹事におかれましては、この度の研修会講演依頼に際して、快くお引き受け頂き、この場を借りて深く感謝申し上げます。

道南技術士委員会では、今後も組織の垣根を超えて地域に根付いた、高度な専門の応用能力を持つ技術者育成支援を目標の一つとし取り組んで参ります。